【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立菰野高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿	○地域から愛され信頼される学校
(2) 育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	○自分を大切にし他者を思いやる心を持ち、基本的な生活習慣やマナー、言葉遣いを身につけ、自ら挨拶ができる生徒 ○確かな基礎学力と、何事にも積極的に取り組む姿勢を身につけ、郷土を愛し地域や社会を支える意欲を持つ生徒
ありたい教職員の姿	○生徒一人ひとりの夢や目標の実現に向けて、目的や方法を共有し、常に連携・協働する教職員 ○互いに支え合い、学び合うことで授業力・生徒指導力をはじめとする教育力の向上に努め、生徒や保護者、地域の方々から信頼される教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>【生徒】学習や部活動を通じて自分の成長を実感できる、充実した高校生活</p> <p>【保護者】安全・安心な学校、卒業後の自立に向けた基礎学力の定着と社会性の涵養</p> <p>【地域】公共心とマナーの育成、地域社会との連携・貢献、部活動の活性化</p> <p>【企業等】基礎学力や体力、何事にも積極的に取り組む姿勢やコミュニケーション能力など、社会的・職業的自立に必要な資質・能力の育成</p>	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>【保護者】学校の取組や子どもの状況についての共有</p> <p>【地域】地域に貢献する人材の育成、地域行事等への積極的な参加</p> <p>【企業等】社会的・職業的自立に必要な資質・能力の育成</p>	<p>【保護者】学校における教育活動への理解と協力</p> <p>【地域】生徒が地域活動に参加する機会の増加</p> <p>【企業等】社会的自立に必要な資質の育成や職業教育への協力</p>
(3)前年度の学校関係者評価など	<p>○生徒の進路希望実現のため、個別にサポートする体制があることを生徒に伝えておくことが大切。大人がきちんと支えてくれることは生徒に与える安心感が大きい。</p> <p>○中学生の進路が多様化している中で、魅力ある学校づくりに取り組み続けることが大切。魅力をどのように発信し、伝えていくかも精査する必要がある。</p> <p>○菰野町唯一の県立高校として、地域の課題解決に高校生段階から関われることは非常に貴重な学びの経験であり、そうしたことを積極的に発信すべきである。</p>	
(4)現状と課題	教育活動	<p>基礎力診断テストなど外部指標の活用により、学習面における生徒の現状や課題は明確となっており、全教職員で共有のうえ、基礎学力の確実な定着に向けた取組が進められている。また、部活動を通じた地域交流や、菰野町と連携した公共事業への協力活動は、生徒にとって豊かな学びの機会となっている。</p> <p>一方、学習意欲の低い生徒や、部活動や学校行事に積極的に参加できない生徒、高校生としてのルールが守れない生徒もおり、全ての生徒が学校生活に積極的に取り組めるような手立てや規範意識を高めるための取組が必要となっている。また、多様な教育ニーズを抱えていたり、特別な支援や配慮を必要とする生徒には、それぞれの状況に応じて、保護者や関係機関と連携しながら、きめ細かい対応を行う必要がある。</p>

	学校運営等	<p>「目指す学校像」は明確で教職員間で共有されており、目指す姿に向けて教職員が協力して取組が進められている。一方で、教職員数が少ないため、個々の教職員の校務の平準化による偏りのない学校運営や、互いに支え合い助け合う同僚性の構築、教職員の多忙化解消に取り組む必要がある。</p> <p>また、積極的な情報発信や地域との連携により、保護者や地域、中学生などに本校の教育活動への理解を促していく必要がある。</p>
--	-------	---

3 中長期的な重点目標

<p>教育活動</p> <p>【カリキュラム・ポリシー】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎力診断テストなど外部指標の活用により、基礎学力定着のための手立てについて効果検証しつつ、PDCAサイクルによる授業改善を進める。 ○総合的な探究の時間についての研究を進め、生徒一人ひとりが命を大切にし、自他を尊重する態度を育むとともに、自らの将来像を具体的に描くことで学習意欲の向上につながるよう取り組む。 ○地域の活性化に取り組む地元の方や地元企業との連携、地域行事への参加などを通じて、地域社会の担い手となる人材の育成に取り組む。 ○生徒会活動や部活動など、生徒の自主的・自発的な活動の促進により、生徒一人ひとりの資質向上と、学校のより一層の活性化を目指す。
<p>学校運営等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○効果的な職員研修や、同僚性を基盤としたOJTの推進により、教職員としての資質を向上できるような組織作りに努める。 ○教育課題についての組織的な取組を強化し、職務の平準化と問題行動の未然防止を図ることにより、教職員の総勤務時間を縮減する。 ○菟野町や地元企業との連携、地域の教育力の積極活用や効果的な情報提供により、地域と学校との相互理解を深め、学校運営に対する地域の方の提言、応援の機会を増やす。

4 求める生徒像

<p>入学時に期待される生徒の姿</p> <p>【アドミッション・ポリシー】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○規範意識や基本的生活習慣が身についている生徒 ○毎日の授業を大切にできる生徒 ○学校行事や部活動、地域活動などに積極的に取り組める生徒
--	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教育課程	<p>学力向上委員会を定期的実施し、基礎力診断テストの結果など外部指標を活用し、基礎学力定着のための手立ての効果検証や見直し、学力向上に向けたカリキュラムの研究に取り組む。</p>	<p>学力向上委員会を年間10回以上実施した。基礎力診断テストの活用法の検討だけでなく、総合的な探究の時間で学習する内容の精査を行い、生徒のより深い学びにつながる学習計画作りに取り組んだ。</p>	◎

学習指導	<p>学校全体の授業改善に資するため、授業公開週間(年間2回)を実施し、改善点について共有するなど、授業力向上に取り組む。また、校内のICT化に対応した教科指導をはじめとする教育活動が実践できるよう、教職員のスキルアップに取り組む。</p>	<p>授業公開を6月と11月に実施し、教員が相互に授業見学を行って授業力向上に取り組んだ。</p> <p>今年度も保護者向けの授業参観も行い、多くの保護者に普段の授業の様子を見ていただいた。</p>	※
進路指導	<p>3年間を見通した計画により、年間を通して進路に関するガイダンス・講話・LHR等を行う(1 学年6回、2学年8回、3学年12回)。</p> <p>3年生に対して全教職員による面接練習を行う。</p>	<p>進路ガイダンス等を外部機関と連携して実施し、生徒の進路意識向上に努めた。</p> <p>(1 学年11回、2 学年11回、3 学年13回)</p> <p>3年生に対しては、全教職員による面接練習を2回行うことで、進学就職とともに希望する進路の実現につなげることができた。</p>	※
地域に根ざした教育	<p>生徒が地域の方々や職業など多様な人々と関わりながら、地域の産業等の協力を得て、地域の活性化や課題解決に取り組む教育実践に取り組む。</p>	<p>地域創生イベント「こもガク祭」に参加し、地域の活性化に取り組んだ。</p> <p>菰野町から依頼を受け、コミュニティバスの車両デザインの作製を美術の授業で行った。</p>	◎
生徒指導 特別支援	<p>生徒会を中心に、いじめ防止のための活動に取り組み、保護者が参加するマナーアップ運動も行う。授業ルールの徹底を通じ、問題行動の未然防止につなげる。</p> <p>また、学年や分掌を超えて、個々の生徒の状況に応じて適切に対応できるよう、生徒指導部・教務部・学年・人権教育担当・特別支援コーディネーターによる情報共有会議を定期的実施する。</p>	<p>授業ルールを明確にしたことで、授業への集中度が全体的に高まった。</p> <p>月に一度全校集会を開き、問題行動の未然防止や、いじめ防止のための講話を行ってきた。</p> <p>隔週で校内人権委員会、いじめ防止委員会を兼ねて、情報共有会議を実施し、学年や分掌を超えた情報共有を行い、生徒に関わる諸問題に対して迅速かつ適切に対応できた。</p>	◎
人権教育	<p>教育活動全体を通じて、生徒一人ひとりが自分を大切にし、他者を思いやる心を育むとともに、生命を大切にし、いじめ・暴力を根絶するための教育に取り組む。</p>	<p>校内人権委員会を年間17回実施し、人権教育推進についての検討を行った。各学年各学期にそれぞれのテーマに基づき人権HR</p>	

<p>環境教育</p>	<p>学習環境を整備し、社会的規範意識や環境問題への興味関心を醸成するため環境美化月間の取組を行う。(年2回)</p>	<p>等を行った。また3月には外部講師を招き、『差別をなくす』をテーマに人権意識の向上を目指した講演会を行った。</p> <p>安全な環境づくりのため、年間2回(6月・11月)の安全点検を実施した。又、環境問題を考える為に美化月間を年間2回(6月・11月)実施し、地域のゴミ拾いや校内の改善を運動部員・美化委員を中心に約200人で行った。</p>	
<p>防災教育</p>	<p>厳しい状況を想定した防災教育を実施する(年間2回以上)。また、避難訓練の状況も踏まえて、防災計画を点検し、必要な見直しを行う。</p>	<p>9月2日に地震と火災を想定した避難訓練を実施した。教員が行う放送ではなく、実際の校内火災緊急放送を使用して訓練をすることができた。</p> <p>12月13日に1・3年生は防災講話を行い、2年生は防災体験を行った。1年生は講話後に防災LHRを行い、場面を想定した地震対策を深めることができた。防災体験ではロープワークや止血体験を行い、実践的に学ぶことができた。</p>	<p>◎</p>
<p>部活動指導 生徒会活動</p>	<p>全国高等学校総合体育大会や全国高等学校総合文化祭をはじめとする大会やコンクール等への出場を目標に部活動の活性化や競技力の向上を図る。</p> <p>また、体育祭や文化祭をはじめとする生徒会行事において、「する」「みる」「支える」など個に応じた関わり方を通じて、豊かな人間性を育むため、生徒会活動の充実を図る。</p>	<p>野球部が全国高等学校野球選手権に出場し、本校として初の1回戦を突破したほか、弓道部が国民スポーツ大会に出場し、全国の舞台上で活躍する成績をおさめた。</p> <p>美術部の生徒の作品が、県代表作品として、近畿高文祭に出展された。さらに、みえ高文祭において最優秀賞に選ばれ、来年度の全国高文祭への作品展示が決定した。</p> <p>体育祭や文化祭の生徒会行事を通じて、生徒間や教員との日常とは違う対</p>	

		話の機会の充実や生徒自身が自己肯定感を高めることができた。	
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> 1年次の早朝学習(朝10)におけるデジタルドリル等の取組により、2年次当初の学力定着状況には改善が見られた。一方で、2年次から3年次への進む間に学力停滞が起きやすい状況があり、生徒が進路決定時に十分力を発揮できるよう、取組を進めていく必要がある。 今年度、生徒一人ひとりが具体的な将来像とその道筋を描き出し、学習意欲の向上につなげられるよう、総合的な探究の時間の内容を整理して新たな基本計画を定めた。次年度は基本計画に則って取り組みつつ、一層の検討を進めていく必要がある。 多様な背景や課題を抱える生徒など、一人ひとりの状況に応じたきめ細かい指導の充実により、一層落ち着いた学習環境を整える必要がある。 			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	教育課題に対する組織的取組を強化するとともに、個々の教職員の校務の平準化により、バランスの取れた学校運営に努める。	基礎学力の定着と規律の確保を両輪に組織的取組を進めているが、成果が目に見えるようになるには一層の取組が必要。校務の平準化についても同様。	◎
職員研修	授業改善や校務の効率的化など、教育課題に対する効果的な取組推進のための研修及びベンチマーキングを実施する(2回以上)。	基礎力診断テストを活用した生徒への指導に係る校内研修を8月に実施。ベンチマーキングは10月に愛知県立豊田南高校の研究授業へ職員1名を、11月にベネッセの学び直し研究会へ職員2名を派遣。	
情報提供	学校関係者・保護者・地域の方・地元中学校等への情報提供をきめ細かく行うため、学校ホームページの更新(月1回以上)とともに、報道機関に対する情報提供を積極的に行う。 中学生やその保護者に、本校教育活動への理解を促進し、生徒募集に繋げるため、情報発信の仕方や機会の充実を図る。	学校ホームページの更新を定期的に行うことができなかった。 5月に実施した在校生の保護者向け授業参観に、中学生も参加可能とし、普段の授業の様子を見学する機会を設けた。 高校生活入門講座を8月と10月の2回開催し、中学生が参加できる機会を増やした。	◎

地域との連携	<p>菰野町唯一の県立高校としての役割を自覚し、生徒・教職員ともに地域の行事等に積極的に参加する(年間4回以上)。</p>	<p>地域創生イベント「こもガク祭」に参加し、地域活性化に取り組んだ。(再掲) 菰野地区「ふれあいまつり」に参加及び運営協力を行い、地域に貢献した。 菰野地区公民館「菰野コミュニティ学習プログラム」に協力し、地域の高齢者と交流した。 菰野町から依頼を受けた「健康寿命延伸プロジェクト」に取り組んだ。</p>	◎
職場風土の醸成	<p>期首・中間・期末面談も活用し、教職員と校長のきめ細かな意思疎通を図る。また、コンプライアンスの遵守を徹底するため情報共有を図るとともに、風通しがよく相談しやすい職場風土を醸成する。</p>	<p>機会を設けて日常的に職員居室を訪れ、意思疎通を図った。「個人情報適正管理」(6月)、「体罰及び不適切な指導の防止」(11月)をテーマに、職員がグループ討議を行うコンプライアンスミーティングを年2回実施して、意識向上と相談しやすい職場風土の醸成に努めた。</p>	
総勤務時間の縮減	<p>教職員が心身の健康を維持し、意欲的に、かつゆとりを持って教育活動に取り組めるよう、時間外労働時間を削減し、休暇の取得を促進するなど、総勤務時間の縮減を図るための具体的な取組を進める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定した日の定時に退校できた職員の割合 90.0%以上 ・予定どおり休養日を実施できた部活動の割合 95.0%以上 ・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 90.0%以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外在校等時間が年360時間を超える教員数 0人 ・時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数 0人 ・一人あたりの月平均時間外在校等時間 15.0時間以下 	<p>【活動結果】()は前年度比</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日達成率 91.8%(7.8%増) ・部活動休養日達成率 98.5%(1.4%増) ・60分以内の会議 100%(前年同様) <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年360時間超教員 2人(1人減) ・月45時間超延べ人数 24人(6人減) ・平均時間外在校等時間 13.0時間 	

	一人あたりの年間休暇取得日数 30.0 日以上	(0.8時間減) 平均休暇取得日数 22.3日(5.3日減)	
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> 全ての生徒に確かな学力を確保し、進路希望の実現を支援していけるよう、関係機関の研究会や先進校視察などに積極的に教職員を派遣し、資質向上に努める必要がある。 ホームページ更新の改善方法を検討するとともに、授業参観や高校生活入門講座など情報発信の取組の見直しを行い、発信力を高めていく必要がある。 菰野町唯一の県立高校として「地域から愛され、信頼される学校」を実現するとともに、生徒の自己肯定感を高め、学びの機会を確保するため、地域との連携を一層進める必要がある。 			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> 人前で発表する経験は成長の大切な機会であり、「こもガク」など、生徒が地域活動に参加する機会を継続的に確保することが重要である。 規律を守るよう指導するだけでなく、生徒たちの意見を引き出し、生徒たちが自身で考えて決定できる場を増やしていくことが大切である。 学校での学習の目的が将来の自己実現のためであることをしっかりと伝えるとともに、進路変更に際しては多様な学びの形態があることを伝えることが必要である。
---------------------	--

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> これまで取り組んできた学力定着の取組に対しては、基礎力診断テスト等による定期的な効果検証を行いつつ、2年次以降での学力停滞を解消するための取組を検討していく。 新たな基本計画による総合的な探究の時間の取組を進める中で、学校での学びが将来の自己実現につながっていくことを伝えるとともに、そうしたことが体感できるよう、取組を進めていく。 校長と生徒会役員との意見交換会など、生徒が意見を表明できる機会を設けるとともに、学校行事など生徒が主体的に学校生活に参画できるよう取組を進める。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> 11月に参加したベネッセの学び直し研究会では、基礎力診断テストの活用方法について、新たな知見が得られた。こうした知見を得て効果的な取組が行えるよう、引き続き、校外の研究会や先進校視察に教職員を派遣するとともに、その成果を全体で共有するなどして教職員全体の知見を高める。 HPの定期的な更新を確保するため、更新方法の簡素化に努めるとともに、高校生活入門講座など、これまでの情報発信の取組の効果検証を行って、効率的な発信に努める。 地域との連携による諸活動では、参加した高校生が貴重な学びを得ることができた。こうした連携を一層進めるとともに、総合的な探究の時間の中で参加生徒による報告の機会を設けるなど、全体への共有に努めていく。